

ICUにおける患者家族の面会時の意識調査

救急部・集中治療部

○安井 貴子・中村 美和・谷脇 えみ
釣井 京子

I. はじめに

近年、患者を含めた家族全体を看護の対象にして援助しようとする家族看護の必要性が言われている。特に、集中治療室（以下ICUと呼ぶ）入室患者は、重症度が高く、家族の精神的動揺は計り知れない。患者の回復過程において家族の情緒的支援は重要であり、また、患者家族が希望するような面会の形が望ましいが、ICUでは、感染予防、安静の保持、治療効果の理由から面会を制限している。しかし、患者の入室に伴い面会が許可されても、家族が患者に近づかない、声かけをしない、触れようとしない等の態度がみられる。そこで、なぜそのような反応を示すのだろうかと疑問を持ち、家族がICUの面会に対してどのような意識を持っているのか、また、入室直後面会における家族の心理状態がどのようなものであるか調査し、検討した。

II. 研究方法

1. 対象者 ICUに2日以上在室した患者の家族30名
(手術後入室25名 緊急入院5名の家族)
特性 性別 男性6名 女性24名 年齢26～70才
2. 研究期間 平成8年6月1日～同年9月20日
3. 方法
 - 1) ICU面会直後の家族に個室で構成的面接法を施行。
 - 2) 面接者は3人の看護婦を決め、そのうちの1人が行う。
 - 3) 所要時間は30～40分
 - 4) Molterの重症患者家族のニードを参考に質問紙を作成し、聞き取り調査を施行し、GHQ(精神健康調査票)を補助的にすることにより総合的評価を試みる。
 - 5) 質問項目から主に面会に関すると思われる項目を抽出した。
 - 6) 質問紙調査票の結果集計
 - 7) GHQ質問票については集計処理

Ⅲ. 結果

1. 6) 質問紙調査票の結果について

ICU入室説明に関しては22名に説明があり、その主なものは長時間の手術、多量出血、合併症があげられた。

家族が面会までに心配していることは、まず、手術が成功するかどうか、次に、足が動くか、手術後目が覚めるまで脳の状態がわからない等、手術前後の身体的変化がないかということや、顔のむくみ、顔色不良等外観の変化がないかということであった。

面会時に感じたことは、顔面の腫脹や気管内挿管に対してかわいそうと思っている、手術の説明から成功したという安堵感や回復の期待が述べられていた。

ICUの雰囲気については、設備が充実して進歩的であり、看護婦が多く安心したという回答が得られた。その反面、半数のものが物々しい、冷たい等の回答であった。

怖いと感じたかについては、感じないと答えたのは29名で、家族なので感じなかった、顔を見て安心したと答えている。感じたと答えたのは1名で、機械がすごいことがあげられた。

患者が苦痛であると家族が感じていることは、声かけしても返事がなかったり、話したそうだったが発声できないことや気管内挿管によるものであった。

触れられない理由として、患者に触ってはいけないと思った、バイ菌が移るといけないと思ったことがあげられた。

声かけをためられる理由として、先生の問いかけにやっと反応したのでそれ以上はみるだけでよい、起こしていいかわからなかったので遠慮気味に声かけした等の回答が得られた。

話しができずもどかしい理由として、麻酔が覚めていないので話せない、元気になるまでは仕方ない等があげられた。

看護婦の対応や希望については、11名がわからない、覚えていないと回答している。

2. 7) GHQ質問票の結果について (表1、2)

表1 GHQの集計結果

GHQ 得点	被験者性別		被験者年齢		患者性別		患者年齢		病名		レベル	
	F	M	0~49	50~	F	M	0~20	21~	心臓血管手術	それ以外	覚醒	それ以外
0	14	5	11	8	6	13	8	11	9	10	11	8
1	3	0	1	2	1	2	1	2	1	2	2	1
2	7	1	4	4	5	3	3	5	6	2	4	4
計	24	6	16	14	12	18	12	18	16	14	17	13
総計	30		30		30		30		30		30	

*GHQ 得点 0 : 0~13点, 1 : 14~20点, 2 : 21点~

参考 GHQ 質問票は 60 項目の質問に対して、「まったくなかった」「あまりなかった」「あった」「たびたびあった」までの 4 段階を選択すると相関関係より身体的症状、不安と不眠、社会的活動障害、うつ状態の要素スケールに分類され得点が出される。正常値は 12~13 点である。要素スケール 0~2 点症状なし、3~4 点軽度症状あり、5 点以上中等度以上の症状あり。

GHQ 得点の平均値は 14.4 点、要素スケールの身体的症状の平均値は 2.1 点、不安と不眠の平均値は 2.7 点、社会的活動障害の平均値は 1.5 点、うつ状態の平均値は 0.5 点であった。特に、ICU の雰囲気に対して暗い、冷たいと回答した家族や苦しう、触れられないと回答した家族は GHQ 得点の平均値 33 点であった。

GHQ 得点で、被験者や患者の性別、年齢、患者の病名、意識レベルの t 検定危険率 5% を施行したが有意差なしの結果であった。

表 2 GHQ 平均値・t 値

p < 0.05

	被験者性別		被験者年齢		患者性別		患者年齢		病名		レベル	
	M	F	0~49	50~	M	F	0~20	21~	心臓血管手術	それ以外	覚醒	それ以外
平均値	10.3	15.5	12.8	16.4	11.7	18.5	14	14.7	17.6	10.9	14.9	13.9
t 値	0.776		0.692		1.214		0.125		0.131		0.192	

IV. 考察

家族が ICU という特殊な環境において、患者に対してどのように接して良いかわからず戸惑いをみせる。その状態の中で、今回、面会時における家族の視覚的側面と心因的側面から家族の意識を把握することができた。

患者を見て怖いと感じたり、触ったり声をかけるのをためらうということに対し、多数が「いいえ」という回答をしているにもかかわらず、行動に移行できないのは、無意識下に患者に対する自己のイメージを持っている為、現実の患者を観ることが脅威と感じる為で防衛機制と考えられる。また、面会して、「触ってはいけないと思った」「点滴や管が入っているから」などの回答から、ICU の環境や、患者が機械に装着されていること、看護婦の説明不足が理由として考えられる。面会入室時に、患者はどのような状態で、話しかけにどのように反応できるのかを説明し、また、多くの医療機器の装着、点滴などが入っていることや、ICU の環境について伝えておくことが患者の現実のイメージにつながるものと考えられる。看護婦側から触れられるように「手を握ってあげてください」「手は暖かいでしょう」などの言葉をかけたり、家族がベットサイドに近づける様に触れ易いような環境を作ることが重要であると考えられる。

私達は、患者ケア、処置などで忙しく、看護婦の目はその殆どが患者に注がれやすい。そして、看護婦に対する希望や対応について「わからない」「覚えていない」と答

えていることについては、家族は患者に対する心配が強いためと、看護婦が手術後に初めて家族に会っており、家族との関係性がなく看護婦への意識が薄くなっていたと考えられる。

山科章は¹⁾「ICUに収容された患者の家族に、悲しみ、失意、当惑があるのは当然であるがその心理状態を一言で表現すると、不安で代表される」と述べている。今回の結果からも家族は手術が成功するかどうかや、手術後の身体的変化に不安を抱いており、GHQ質問票では、正常者よりやや高いストレスを示していた。要素スケールでは、不安や不眠に軽度の症状を示しているが、身体的症状、社会的活動障害、うつ状態については特徴がなかった。家族は手術前からストレスが続いており、易労感、心労が強い傾向にあり、家族が患者を家族の一員として接することができるよう、家族の持つストレスを理解し、家族から言葉、態度、感情の表出がなくても、看護者は察知し、看護婦側から積極的に声かけを行い、家族からの質問には快く接する配慮が重要であると考ええる。

V. おわりに

今回の調査では、家族のICUについての意識やストレスを感じている現状が把握できた。けれども調査数が少ないこともあり、ストレスの明確な内容については言及することはできなかった。今後は、入室予定されている患者及び家族に対して術前訪問し、信頼性を築き援助をしていけるよう検討していきたい。

引用・参考文献

- 1) 山科 章：患者家族からの発言，ICUとCCU8，P797-800，1984.
- 2) 高橋定子：集中治療を受けている患者の家族への対応，臨床看護第15巻号，P769-800，1989.
- 3) NancyC. Molter：重症患者家族のニード，看護技術8，P137-143，1984.
- 4) 高橋定子他：集中治療室における面会の現状と家族の役割，ICUとCCU11，p297-305，1987.
- 5) 上泉和子：集中治療室における看護ケアの分析とその構造化，看護研究1，P2-19，1994.
- 6) 堀井匡子他：小児ICU入室中の患者の家族のニード，臨床看護研究の進歩，P148-155，1990.
- 7) 岡堂哲雄：病気と人間行動，1995.
- 8) 野嶋佐由美：看護者による家族への働きかけ，対応困難な家族に対する看護の分析を通して有効な家族看護モデルの開発とその検証，P25-38，1995.